

日本経済新聞

12月29日

月曜日

綿状の人工骨、米で発売

オルソリパース 様々な損傷に対応

医療機器ベンチャーのオルソリパース(横浜市、西川靖俊社長)は、どんな骨の損傷部にも対応できる綿状の人工骨を米国で販売する。米食品医薬品局(FDA)から外傷用の医療機器として販売許可を得た。現地の販売代理店と交渉し、2015年春から売り出す。綿状人工骨の販売は世界で初めてという。

人工骨「レボシス」は名古屋工業大学の春日敏宏教授の研究成果を応用して開発した。生体内で自然に吸収される炭酸カルシウムやポリ乳酸といった素材で作られていることから、安全性が高い

としている。従来のブロック状や粒状の人工骨と違い、独自の配合技術を使って繊維状に加工。どんな骨の損傷部にも対応できる。通常の人工骨に比べて製造コストも低く抑えられるという。

まず、外傷性の損傷部に埋め込む人工骨として販売を始め、15年秋には脊椎治療向けの販売許可を申請する。

約400億円とされる米国の人工骨市場で1割程度のシェアを狙う。米国に次ぐ市場規模を持つ欧州での販売も始める方針だ。

オルソリパースは名古屋工大の人工骨の研究成果の譲渡を受けて設立したベンチャー企業。米国での販売開始などにも備えるため、11月には第三者割当増資で計3億1000万円を調達した。創業ベンチャーのジーンテックノサイエンスなどが出資している。